

地区グループ活動の一覧 (2011年度)

Table with columns: 支部, 地区名, 期首会員数, グループ全体数, 2011/4月~2012/3月 (運営, 経営, その他), 機能別(小グループ) (全員包括グループ, グループ数, 会合数, 企業訪問, ミニ例会, 運営, 懇親).

①上記の一覧表作成にあたっては、「あいどる」上での各地区の小グループ活動および地区議案書を参考にしました。②「会合内容」では「あいどる」での案内を参考にし、主なものを一つ選択しました。

小グループ活動レポート

会員一人ひとりが主人公

1100社の企業訪問

年間2100をこえる小グループ会合が

二〇一一年度、愛知同友会(期首会員数三〇九三名)では、基礎的組織である五二地区のもとに、一八五の小グループが設けられ、このグループ会だけでも年間二一〇〇を超える会合が開かれました。これ以外にも経営指針など課題別的小グループもあり、すべて会員による自主運営とな

っています。

小グループ会の会場の半分は会員の会社で行われ、年間一〇〇件を超えています。

時代への適応

この企業訪問では、参加者が社内や工場内の雰囲気も感じながら訪問先の会員の報告を聞くことで、経営課題が身近になり、自らの経営に照らし、課題解決へ向けた意見交換を深めることができます。一合あたり参加者は一〇〜一五名で、近隣の企業や

入会時の推薦者などについて、よく知り合った関係であったため、討論がはずみずみです。

てきました。

組織は一旦つくられると硬直的になりますが、会社の組織と同様に、時代の変化への適応が素早く行われてきた証しと言えます。また組織が細分化されると、まとめ役のリーダーが必要となり、継続的にリーダーが輩出される仕組みともなっています。

大阪同友会が見学に来た

愛知全体の組織の隅々まで

血が流れる役割を地区が担い、一人ひとりの会員に届ける役割を担っているのが小グループ活動です。そこでは、膝を突き合わせて交流し、人には言えない経営の悩みや、俱全体の動きが密に情報交換されています。

五月には、大阪同友会の会員の皆さんが名古屋第二青同と稲沢地区のグループ会に参加し、「こんなに楽しいところなら、もっと早く入会したい」「真剣で本音の討議。それでいて建設的なアドバイスに満ちている」など驚きの声がかかりました。

2012/6 特集II SPECIAL SECTION

会の隅々まで行きわたる経営課題の学びと同友会の情報

愛知同友会小グループ活動を見学して

「また参加したい」——大阪からの見学者の声でした。愛知同友会では、グループ会を軸に、組織の隅々まで血の通った活動が展開されていました。退会が少なく、会勢が純増していく同友会の構造の一端が感じられます。2012年度大阪同友会の組織方針の柱となっている小グループ活動。「まず実例を知ろう」と、愛知同友会への見学に向けた中央ブロックのみなさんから貴重な報告が寄せられましたので紹介します。

こんな楽しいところならもっと早く入会していたのに

グループ会見学レポート

今回、大阪中央ブロックにて各支部と連携した小グループ活動を進めるにあたり、ブロック組織委員会のメンバーを中心として愛知同友会のグループ会を見学を行いました。グループ会には所属するメンバーの会社にて毎月持ち回りで開催されており、メンバーの近況報告、各委員会からの連絡を中心とした運営に関する議事、会場を提供するメンバーによる経営課題報告とディスカッションの3部構成にて行わ

ているように感じました。ある会員が雑談の中で「こんな楽しいところを知っていたらもっと早くに入会していたのに」と言っていたのが印象に残りました。

次に支部(ブロック)や地区(支部)全体のことも含めた、グループ会内での運営に関する議事について。10数名の各委員が順に、担当する上位組織の委員会に関する報告などを行っています。ほとんど議論らしいものはありません。また、会の進行が議事録用紙をベースに行われ、PDCAのサイクルが上手く回るように工夫されていたのが特筆されます(レジュメがそのまま、議事録となる)。事務局が関与

今回の見学において、愛知同友会での小グループ活動の要点を以下の3つにまとめました。

- ・会員同士の人間的つながりを主眼に置いた関係構築
・会員同士の学びの差をつくらないための役割分担の仕組み
・リーダーを組織内に継続的に生み出すための中長期的視野に立った役員選出

最後に、見学を通じて強く印象づけられたのは、グループ会の進行に突込みが絶えない楽しい会であったということです。減らさない組織につながるための、会に所属する楽しさを自然につ

見学日時 5月14日(月) 19時~21時

参加者 中村隆一(組織副部長・フォロー担当)、高宮令子(大阪中央ブロック組織委員長)、寺田治彦(大阪中央ブロック広報委員長)、大西隆裕(大阪中央ブロック組織副委員長)
訪問先 愛知同友会 名古屋ブロック第2支部(大阪でのブロックに相当)
名古屋第2青年同友会(大阪での支部に相当) 岩中室5月室会



▲笑顔があふれる仲間

参加者の感想

「隅々まで血が通う対面の意思疎通」

成和樹脂工業(株) 中村 隆一

「愛のあるグループ活動」

(株)関西ホームサービス 高宮 令子

今回参加した愛知の室会(小グループのこと)は、所属13名中8名出席(われわれを入れたら12名)で行われました。構成単位からすると参加率が高い、欠席者の状況も把握されていました。前半は上部組織からの連絡報告で、大阪の幹事会のようなものでした。

違うのは、連絡事項を大勢の中で言うのか、顔を見ながら一人ひとりに伝えるのかの差です。次の行事に参加できるのかどううかもその場で聞いていくことができ、意思疎通が密に取れる感じがしました。20時頃から経営課題報告担当の山田弁護士の話がありました。自社の強み、弱み、これからの展望を書いた用紙(SWOT分析)に基づき、われわれも含み全員からアドバイスを受けていました。出席者からの質問、つっこみなどで本人が真剣に考えているところが随所にあり、非常に有意義な時間でした。

室会全体は和気藟々と良い雰囲気でも進んでいました。こういう会があれば構のつながりは非常に強いものになると思います。少人数ならではの独特の結束力がありません。

わずかの数時間の体験でしたが、大阪同友会が学ばべき点が多くありました。真剣で、本気、本音の討議。それでいて、誹謗・中傷のたぐいはまったくありません。建設的なアドバイスに満ちています。小グループということもあり、無断欠席にはならない仕組みができていました。遅刻者がまったくないことも、整然とした会の雰囲気を感じられました。

室長(グループ長)がミニ支部長の役割で引っ張っていますが、大変能力の高い方でした。会歴はまだ3年だそうですが、参加者も室長に敬意を払っている雰囲気がありました。事務局が運営にかかわらないこともあり、自分たちで何でもやる主体者意識が発達しています。レジュメひとつとっても合理的にできています。

全体を通じて「愛」を感じました。真剣な課題の提起に対し、建設的な発言があり、それでいて全体を通じて笑顔にあふれています。ここに誘われてゲスト参加したなら、間違いなく「入会したい」と思うことでしょう。大阪から参加した私でも「また参加したい」と思われました。

※大阪同友会の広報誌「OSAKA中小企業家」6月号より抜粋させていただきました。